表１　道内主産地のにんにく圃場サンプルからのLYSV、OYDV、allexivirusの検出

地域名	サンプル数	検出ウイルス		
		LYSV	OYDV	allexi-virus
空知	9	8	1	3
石狩	4	2	1	3
後志	9	9	8	0
胆振	3	2	1	0
檜山	5	5	0	1
上川	7	6	2	2
オホーツク	14	11	7	7
十勝	14	7	7	2
合計	65	50	27	18

図１　FITC Detection before Array（FDA）法による診断（診断フローと作業時間）

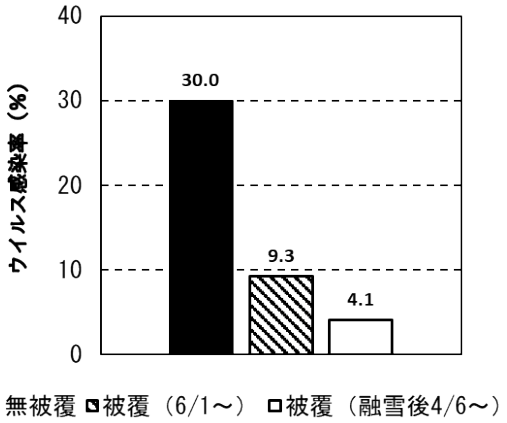

図２　防虫ネット（目合0.8mm）被覆によるウイルス（LYSV、OYDV）の再感染回避効果（ホワイト種：R3年）

図３　にんにくのウイルスフリー化による増収効果（ピンク種：R2年）

【用語解説】

・FITC Detection before Array（FDA）法：
蛍光標識（FITC）プライマーとマクロアレイ用ビオチン標識プライマーにより、RT-PCR法で得た増幅産物を電気泳動で蛍光により一次判定、擬陽性（泳動像が不鮮明など陽性・陰性の判定に迷うケース）の場合には、残りの増幅産物をマクロアレイでビオチン標識により二次判定を実施する。

・ホワイト種：福地ホワイト系など。秋に播種後、萌芽・生育した状態で越冬。珠芽は利用しない。

・ピンク種：北海道在来系。秋に播種、越冬後に萌芽。総苞内の珠芽は一部で種苗に利用されている。

詳しい内容については、次にお問い合わせください。
道総研　花・野菜技術センター　生産技術グループ
電話（0125）28-2800　E-mail：hanayasai-agri@hro.or.jp